

二〇二二年度入学試験問題

国語 (六〇分)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 二、この問題冊子は28ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 四、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1〜40まであります。
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1〜50、選択肢が①〜⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一

喘息ぜんそくに悩まされている「私」は、名医と評判の山元博士の治療を受けに通うことになった。しかし、博士は「私」の病状にはさほど関心はない様子だった。ところが、エビを食べると喘息になる友人Iのことを話したとたん、博士はがぜんその友人に興味を示し紹介してほしいと頼むのだった。一方、事情を聞いた友人はそれを承諾してくれず、困ってしまった。「私」が妻を伴い食事に出かけるシーンである。次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

次の日曜日に、一人だけで博士の診察室の扉のノブを廻まわす瞬間を想像すると、私はほとんど生理的な苦痛を覚えた。

その頃のある夜、不時の収入があったので、私は妻と街のキッチン風の小さな洋食屋で食事をしようとしていた。

「わたし、エビのグラタン。 A、あなたも同じでいいでしょう」

妻は、私が海老えびが好物なのを知っているので、傍で待っているウエイトレスに注文しようとした。そのとき、私の臉まぶたに山元博士の笑顔が浮び上った。と、海老という奇怪な形をした生き物に、嫌悪の念が湧き上った。

「いや、僕はエビはやめておこう」

メニューを取上げようとすると、ウエイトレスの声が遮った。

「グラタンですと、竈オウソの関係で二人前以上でなくては、料理できませんが……」

「そうか、それなら僕も同じでいい」

と、私はウエイトレスの顔を振仰いで言った。私の顔は、おそらく彼女がエビでもあるかのように、憎々しげな表情を浮べていたことだろう。

しかし、海老の料理はやはり美味であった。私は帆立貝のような形の容器の隅まで、キレイに浚さらってしまった。このとき、不思議なことが起った。

食後のコーヒーを、飲んでみると、向う側に腰掛けている妻が、私の顔をのぞきこんで首をかしげた。

「あなた、顔の皮膚がなんだか変な具合よ」

そう言われれば、先程から全身的な不快感に襲われていたので、明るい室内の人目を気にしながらも私は妻の懐中鏡を借りて、顔を映してみた。すると、瞼と鼻の両脇、それに顴骨の部分の皮膚が、赤く地腫れしているのが見られた。鏡の中の瞼はみるみるうちに腫れあがって、眼球に覆いかぶさりはじめた。

私はあわてて妻を促して戸外へ出、車を拾って家へ帰った。そのころには、湿疹のようなものは首の周囲の皮膚にも現れはじめていた。ただ、そのほかの部分の皮膚は平素のままの状態で、それに搔痒感^{そうよう}はさして無かった。しかし、この症状は軀の内側^{からだ}には限なく拡がっているような、皮膚呼吸が遮られているような、重苦しい感覚が私の全身を捉えていた。

応急の手当として蕁麻疹^{じんましん}の売薬を用いてみたが、一向に効果は現れなかった。しかし、これは蕁麻疹の一種に違いあるまい、と私は考えた。そして、蕁麻疹と喘息とは同一範疇^{はんちゆう}の症状ではないか。

全身的な不快感は一層激しくなってきた。私の眼には、私自身の爛れた胃壁^{たんだ}、幾メートルにも亘る腸管の壁、さらにあらゆる血管の内側が浮び上ってきた。

と同時に、その不快感の底から大きな安堵^{あんど}のおもいがぼつかり浮び上ってくるのを、さらに私は見た。それは、むしろ晴れがましい^a気持ちに近かった。

今度こそ、あの医者^{むし}の許へ大威張りで行けるではないか。診察室の扉を開いて私が室内に入つてゆくと、山元博士の視線が私の背後に人影を探つても、私はもはや恐縮する必要はない。……私が背後に従えてゆく筈^{はず}のエビを食べれば喘息になる友人は、すでに私の内部に這入りこんでしまつて、私自身が博士を狂喜せしめる人物そのものになつてしまつたのである。

それは喜びの感情に近かった。しかし、それが潮の引くように去つてゆくと、今度は別の感情が押寄せてきた。その感情は、なぜこんな現象が私の上^{うへ}に起つたか、ということにまつわるものである。……博士の執拗な願望^{しつたう}が、或はその強い個性が私の内部をついに浸蝕^{しんしょく}し、その空白にIの病気が移住してきたといえるのであろうか。私はついに、博士に屈伏したことになるのだろうか。

翌朝、皮膚の状態は余程回復してはいたが、まだ赤い地腫れが残っていた。

その日は治療日には当たっていなかったが、私は早速博士の許へ出掛けていった。相反する二つの感情は依然として私の心に棲んでいたが、結局のところ、博士の笑顔を予想すると心優しいものがあつた。そのときの私にとっては、博士の笑顔は鬼のようなものではなかった。

私は勢よく診察室の扉を開けた。

「エビを食べたら、こんなことになりました。なんとかしてください」

その言葉の調子は平素より高いし、そのうえ甘えるような響が含まれているのに気付いて、私は苦々しい気持になつた。しかし、私の博士にたいする期待の大きさが、それを直ぐに拭い去つた。

ところが、その期待は全く裏切られてしまつた。博士は私の顔をチラリと見て、

「ほう、ちよつと腫れましたな」

と、ほとんど無関心な口調で言つた。私の皮膚に向けられた目付きは、私の平凡な喘息を眺めるものと変りないものであつた。私はほとんど侮辱を感じて、語気を鋭くして言つた。

「エビを食べたら、十分とたたないうちに腫れてきたのです。やはり、アレルギーの一種だと思ひますが」

博士は不機嫌そうな顔で、私に一瞥を与えると、

「いまは、何でもかでもアレルギーといつて片付けてしまふ。困つたものだ。それは単なる皮膚病です」

と言ひ、すつと立上つて薬品棚から細長い小さなガラス瓶を取出すと、私の前に差出した。

「この薬でも塗つてごらんさい」

おもわず私は掌を差しのべて、小さな瓶を受取つてしまつた。瓶のなかで揺れている黄色い液体が眼に映ると、一層の屈辱感で赫つと体内が熱くなつた。

「それでは、エビとは無関係だとおっしゃるのですか」

「儂は、偶然の出来事だと考えますな」

「しかし、僕のエビの友人は、エビの汁が眼の中へ飛び込んだとき、顔が腫れ上ったと言っていましたぜ」
「それと喘息とは、別のものです」

すでに博士の口調には、自分の学説を主張する依怙^{いこじ}地^ちさと冷静さが現れていた。したがって私は「ソレ^fジャア、セツカクノオレノ海老ノ蕁麻疹^{じんじん}ヲ、治療シナイツモリナノカイ」という言葉を呑み込んでしまった。そう言ってみたところで、博士は私の掌のなかのガラス瓶を指して「その薬をおつけなさい」と、眉一つ動かさずに答えるにきまつていた。

私が黙ってしまったのをみて、博士はゆっくりと教えさとすように喋^{しゃべ}りはじめた。

「今までの学説では、喘息は気管支の周囲の神経が痙攣^{けいれん}を起して気管を圧迫し、その結果現れる呼吸困難だと思われていた。が、僕の説では、気管支に溜^{たま}る痰^{たん}がその原因というわけなのである。したがって、喘息を治療するには、この痰を除去することを考へなくてはならない。……昨日、A新聞がやってきて僕の話^{はなし}を聞き、写真も撮^とって帰^{かえ}ったから（ここで博士はいとも邪気なく嬉^{うれ}しげに顔を崩した）、近いうちに記事になる筈^{はず}です。そのときは、あなたも念を入れて読んで下さい」

私は、相変らず黄色い液体の瓶を掌に握りしめていることに気付くと、忌々^{いまいま}しくなって、それをポケットの中へ放りこんだ。そして、半ば憤然^gと半ば悄然^{しやうぜん}として診察室を出たのであった。

その黄色い薬液は決して使うまい、と私は考えていた。しかし、私の皮膚疾患はいつまでもぐずついた。アレルギーー症状というものは、ある時間を境目に異常なほどの速さで治るものである。それに反する、皮膚の症状のあまりの執拗^{しつごう}さに、私はとうとう山元博士に渡されたガラス瓶の薬を塗^ぬってみる気持になった。

コルクの栓を取って、指先に薬液を滴^たらしてみると、ねばねばした感触で、強い刺戟^{しげき}臭^{くさ}が鼻^{はな}を擦^すった。

私は顔面に、うすくその液体を塗りつけてみた。……ところが、これはいけなかった。液体の刺戟^{しげき}によって、再び皮膚は赤く腫れあがってきた。やがて、瞼は眼球の上に垂れさがり、最悪の状態に逆戻りしてしまった。

しかし、博士の薬液が効き目がなく、このような悪い結果をもたらすことをひそかに期待している心が、私のうちに潜^{ひそ}んでい

なかったとは断言できない。

一週間ほど経って、私の疾患はやっと治った。以来、私はエビを食べることを避けていた。

私はエビを食べて再び皮膚が炎症を起すことを恐れていたし、又、同時に何の反応も起らないことも恐れていた。したがって、私は全く手が出ない有様だった、といえる訳である。

ある日、街の食堂で、何気なくシナソバを注文した。給仕の運んできたドンブリを見ると、小さな芝海老が二、三匹汁のなかに浮いていた。

私はしばしためらった後、その海老を一匹ずつ箸で摘み上げて、ドンブリの外へ全部出してからソバを食べた。ところが一時間ほど後、この前ほど烈しくはなかったが、やはり同じ症状が首から上の皮膚に現れたのである。それは、私の見解では「エビの成分が汁の中に混りこんでいた」ということになり、山元博士の見解では「それとは無関係の単なる皮膚病」ということになる。

先日まで友人Iの海老についての話を笑いながら聞いていた私が、以来、街で食事をしなくてはならないときには、

「ヒヤシソバというのは、エビは入っていないだろうね」とか、「五目メシをたのむ。但しエビは入れないでください」とか、余分な言葉とともに注文することになったのだ。

この小事件以後、私の皮膚は一層過敏になってきた。

街を歩いていて、レストランの飾窓の内側に並べられた料理の実物見本の皿のなかに、伊勢海老が背を縦に割られて、代赭色の縞の入った白い肉をあらわにしている風景……。真赤に茹でられた甲殻に散らばった黒い点々と、細かい硬い毛のいっぴい生えた二対の長い触角と十本の脚……。が目に触れると、私は軀の奥深くから浮び上ろうとしているイジイジしたものが、皮膚の裏側につたわってくるのを覚えるのであった。

B、このまま佇んでいたならば、シヨウウインドウの硝子板に半調で映っている私の軀の、首から上の皮膚が徐ろに腫れ上って赤く染ってゆくのを見なくてはなるまい、と私は倉皇として立去るのであった。

したがって私は、食堂の無さそうな裏通りを選んで街をジグザグに歩くのであるが、そんなときに限って意地悪く新しいレス
トランがぼつかり行手に立塞たちふさがって、私を脅かすのであった。

街へ出る度に、私は指名手配されて逃走中の犯罪人の心境をそのまま感得した……。といえいばいさいかさか大袈裟おろげさになるが、とも
かくも、やがて私はそのように戦々兢兢せんせんけいけいとしてゐる自分自身に腹立たしくなってきた。

エビを食べると神経性の皮膚炎になることは、山元博士の異論にもかかわらず、私にとつては確実なことである。しかし、つ
い先日まで、私はエビを何の障害もなく食べられたではないか。したがって、短期間のうちに再びエビが食べられるようになる
ことも、可能なわけではないか。

山元博士の診察室へ行かなくなつて二週間目の日曜日の夕方、私は百円札を数枚ポケットへねじ込んでレストランへ出かけて
ゆき、下腹jに力を入れてどつかと椅子に腰を下ろし、重々しい声で注文を発した。

「コールド・ロブスターをたのむ」

銀色に光るナイフとフォークを両手に構えて、私はやがて運ばれてきた大きな皿の上の甲殻かかくつきの海老に襲いかかった。

甲殻から肉を剝して口へ入れ、ゆつくりと嚙かんだ。柔らかいうちにも撥ね返はつてくる弾力が歯に応え、咽喉を下つてゆく感觸
がいつまでも続いているように思えた。

私は決闘していたわけである。それは何に対してだろう。エビに向つてか、山元博士にか、あるいは、私自身に対してである
か。

海老を全部嚙下えんげしてから、二分、三分、私は軽く指で顔の皮膚を撫なでてみた。何事も起らない……。私はゆつくり席を立つて、
店から外へ出た。

街は日暮どきの雑踏で、私は人波にまぎれ込んでゆつくり歩いていった。空はいちめんだいたん橙色の夕焼で、鱗形うろこがたの雲が地平のあ
たりに現れていた。都会の地平線は大小の建築物で凸凹でこぼこに区切られ、ドーム形の教会の屋根が一際目立っていた。

私は心が浮き立っていた。私の皮膚は何ともないではないか。大きく息を吸いこんだ。と、その刹那、またしても私は軀の奥

深いところで蠢きはじめたものの存在を覚えたのである。

大きく吸いこんでしまった息を、とぎれとぎれに少しずつ口から出しながら、私は気分を転換させるために路傍の新聞売子から、夕刊を一枚買ってゆっくり歩を運びながらそれを拵げた。

その瞬間、私の眼に飛び込んだものがある。社会面の左上に、あの山元博士が微笑んでいる写真が載っていたのだ。見出しは大きな活字で、『喘息治療に新説。山元博士三十年の研究の成果。アメリカ学界も注目』とあった。

私は、その博士の額のあたりから、二本の長い触角が生えてくるのをみた。続いて、細い毛のいっばい生えてピリピリと震動している一対の短い触角……。

今度こそ、私は紛れもない喘息の前兆が、軀の中を這い廻りはじめたのを感じたのであった。

（吉行 淳之介「治療」による）

問一 空欄 A・B に入る語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。解答番号は 1・2。

A 1 今日こそは

2 もちろん

3 たまには

4 面倒だし

B 1 やはり

2 あたかも

3 もしも

4 まさか

問二 傍線部 a 「それは、むしろ晴れがましい気持ちに近かった」とあるが、なぜ「晴れがましい」と思ったのか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

1 エビを食べると喘息になる友人をどうにか山元博士に紹介したいと思っており、エビに対するアレルギーが自分にも出たことで友人とともに博士のところへ行く口実ができたから。

2 喘息の原因がわからずと悩んでいたが、エビを食べて蕁麻疹が出たことで自分の喘息も友人と同じくエビに対するアレルギーだと確信がもてたから。

3 山元博士に興味をもってもらえる友人をうらやましく思っており、エビのアレルギーになることを心のどこかで望んでいたから。

4 エビを食べると喘息になる友人を連れていくことができずに恐縮していたが、エビのアレルギーが自分に出たことでなんの気兼ねもなく山元博士の許へ行けるから。

問三

傍線部 b・d・i の語句の意味はどれか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。解答番号は

。

b 「依然として」

1 もとのままで

2 たしかにしっかりと

3 当たり前のように

4 ひっそりと

d 「一瞥を与える」

1 疑いのまなざしを向ける

2 さげすんだ目で見ると見る

3 じつと見る

4 ちらりと見る

i 「いささか」

1 もつとも

2 かなり

3 少し

4 まったく

問四

傍線部c「私は苦々しい気持ちになった」とあるが、このときの「私」の気持ちはどのようなものであったか。次の1〜4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 7。

1 山元博士の望む症状を自らが実現でき、博士に対して媚びているのが声に表れていて気恥ずかしかった。

2 アレルギーになると期待してエビを食した手前、診察してもらうのはばつが悪い気がした。

3 山元博士に関心をもって診察してもらえるところ高揚感に気づいて不快な気分になった。

4 エビのアレルギーを発症したとたん山元博士に心を開いている自分に気づき、自分の単純さにあきれた。

問五 傍線部 e 「一層の屈辱感」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 8。

- 1 症状はエビに対するアレルギーだと思う「私」に対して、それを否定する博士から与えられた薬を思わず受け取ってしまったことに対する自責の念。
- 2 アレルギーを主張する「私」の意見に聞く耳をもたず、博士はまともに診察をしていないにもかかわらず、薬を受け取って安心した自分に対するやるせなさ。
- 3 「この薬でも塗ってごらんさい」と軽くないしてきた博士に逡巡しながらも、薬を受け取らざるを得なかった自分の小ささに対するふがいなさ。
- 4 場の空気に流されて薬を受け取ってしまった、博士に単なる皮膚病ということで丸め込まれてしまったことに対する悔しさ。

問六 傍線部 f 「ソレジャア、セツカクノオレノ海老ノ蕁麻疹ヲ、治療シナイツモリナノカイ」とあるが、カタカナ表記になっているのはなぜだと推測できるか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 9。

- 1 博士の態度にあきれて無感情になっている様子を表すため。
- 2 現実と心の中の二面性を表すため。
- 3 もう一人の自分と対話していることを表すため。
- 4 この言葉を心の中に刻み込んでおこうと思ったことを表すため。

問七

傍線部 g 「半ば憤然と半ば悄然として診察室を出たのであった」とあるが、このときの「私」はどのような状態であったか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 10。

1 主張を受け入れてもらえず、博士の説明になすがままの自分に対する怒りと、所詮患者は薬に頼るしかないというあきらめが入り混じった状態。

2 なにを言っても自分の意見を通そうとする博士に反発していたが、新聞記事になるほどの論説だと知り、博士の意見に釈然としない気持ちと納得する気持ちが入り混じった状態。

3 意見を押し通そうとする博士に対して、自分は他人の言うことに盲従しないといきり立つ気持ちと、説得できなかったという失意が入り混じった状態。

4 博士が言うことに納得できないが、誇らしげに新聞の話までしてきたことからこれ以上話をしても無駄だと察し、怒りとあきらめが入り混じった状態。

問八

傍線部 h 「悪い結果をもたらすことをひそかに期待している心が、私のうちに潜んでいなかったとは断言できない」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 11。

1 薬の効果が出なければ自分の考えが正しいと証明されるのではないかと期待していたということ。

2 薬を塗って治らなければ再び博士のところで診察を受けられると期待していたということ。

3 博士がくれた薬を塗っても治らずに悪化すると予想していたので、予想通りになることを期待していたということ。

4 薬に効き目がなければ博士がでたらめな診察をした証拠になるので、効き目がなかったことを期待していたということ。

問九

傍線部；「下腹に力を入れてどつかと椅子に腰を下ろし、重々しい声で注文を発した」とあるが、このときの「私」の心情を端的に表した語句はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 12。

1 動揺

2 自嘲

3 挑戦

4 改悛かいしゆん

問題二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

イデオロギー^aは、常識を根底から崩してしまふのである。現実と幻想が入れ替わってしまい、逆転した論理があたかも真理であるかのように指し示される。それまでの常識をまるで意味のないものとして否定してしまい、イデオロギーの観念にそつた新しい世界を、これが真実の姿であると主張するのである。

もちろん、だれも信じる者がいなければ、それまでの話である。ところが、それが意外と **A**。また、そういう人が何人かいたとしても、ごく少数であればそれほど問題ではない。しかし、それが無視出来ない人数に膨れ上がれば、社会にとつて重大な問題にならざるを得ない。ときには、社会はチツジ^bのコンカン^cを揺さぶられ動揺せざるを得ないのである。

ある主義、または宗教を信じ現実を否定する者と、そのような主義、あるいは宗教を信じない者との間では、議論は不可能である。なぜなら **B** が違うからである。これは、努力する、しないの問題ではない。

議論というものは、なにか一致するところがあるから成り立つのである。前提がしっかりしているほど、議論はかみあう。

現実を否定するような主義、または宗教を信じている者と、そうでない者が議論しようと思えば、まずは、そのような主義、または宗教を信じる^dことがダトウか否かという議論から始めなければならない。そこで意見の一致をみなければ、そこから先へは進めないのである。敢えて進もうとすれば争いになる。

空想や観念が、どのような世界を描こうと、それが空想であるという自覚を失わないかぎり、イデオロギーではない。イデオロギーとは、ある特別の観念を前提としてタイケイ^eを作り上げ、それを真理であると信じ、この真理を実現させることが、あらゆる正義に優先すると考えるのである。「現実」は議論の前提ではなく、否定の対象となってしまうのである。

人間の、すべての観念や理念は、それがどれほど立派なものに見えたとしても、それは手段のひとつである。人間の生きる営みになんらかの意味づけや動機づけをしている。あるいは、知識のタイケイとして人間の知的空間を豊かにする。しかし、それ

はあくまで、人間の道具である。

では目的はなにか。それはいうまでもなく、人間である。観念や理念は、あくまでも人間が考え出したものである。目的は人間であるのは当然のことである。論理の前提、あるいは目的は、常に人間でなければならぬ。

ところが、イデオロギーは、目的と手段を、見事にひっくり返してしまうのである。

「理念」が目的になると、その「理念」の実現の貢献度によって人間の価値が決まる。極端な場合、その理念に必要な人間や反対する者は抹殺されることにもなりかねない。理想や正義の名のもとに、大きな悲劇が繰り広げられることになるのである。「観念や理念の実現」が **C** になってしまい、「人間の立場」は **D** と化してしまう。このとき、人間から「道理」は奪われ、人間は「理論」のドレイ^fとなる。正に悲劇である。

私は、この現象のことを、「論理逆転の現象」と呼んでいる。この、「論理逆転の現象」こそ、文明を揺るがす原点である。開かれた場での議論に政治を託そうという民主主義にとつて、国民の常識こそ命の支えであるが、それを根底から覆す「論理逆転の現象」は、最大のがんであるとニンシキ^hしなければならぬ。

仏教や共産主義以外にも「論理逆転の現象」は多方面に及んでいる。しかし、そのメカニズムは共通で、いずれも観念のもたらす錯覚である。

人間の観念には限りがないという性質がある。この性質のため、ともすると、現実を通り越して迷走したのである。いったん迷走しだすと、その世界は果てしのない世界である。生身の人間であれば、月に行くのも大変である。しかし、観念の世界は別である。あつというまに無限のかなたにまで飛んで行くことも可能である。というよりは、無限の網に、引っ掛かってしまうというべきであろうか。

私たちの周りに存在するものは、大きいか小さいかはともかく、総て限られた存在である。ところが、人間の観念には限りがないという性質があるため、観念だけを積み重ねて行くと、すぐに、無限大とか、永久という観念にぶつかるのである。

E、自然数を考えてみよう。あるいは直線でもよい。いくらでも大きく、あるいは長くしていくことが出来る。人間

の生み出した概念である自然数や直線には、いくらまで、あるいはどこまで、という限界はない。そこで、行き着くところは「無限大」である、と考えてしまうのである。同じ線上で、有限と無限とがつながっているように考えてしまうのである。総ての錯覚の原因は、ここにある。

実は、有限と無限はつながらないのである。有限と無限は性質が違うのでつなぐことは出来ないのである。

自然数は、いくらでも大きい数字を考えることは出来るが、有限の範囲を超えることは出来ない。自然数や線分には、無限に延ばせるという性質があるというだけである。どこまでも延ばせるといっても有限の範囲の中でのことであって、どこまで延ばしてみたところで有限の枠を超えることは不可能である。「無限」や「零」は、自然数に働きを与えてはいるが、有限のモノを表わすことは出来ない。

有限の数の最上位に「無限大」を置くことは、不思議でもなにでもないことのように考えられるかもしれないが、実は、これが間違いなのである。

有限をいくら大きくしようが長く延ばそうが、有限はどこまで行っても有限である。人間の観念には限りがないという性質がある。

F

、考えるだけならいくらでも大きい数を考えることは出来る。ただ、それだけのことである。現実には、無限の大きさも、永久の時間というものも、存在しないのである。空間も時間も、構成されたものであり、無限ではありえないのである。

空間は四方に、時間は過去と未来に、どこまでも続いているとしか思えない。そして実際にも、「果て」と思えるものを人間は見つけることは出来ないのである、しかし、無限でも永久でもないことだけは、理解しておかなければならない。

だれでも知っている有名な物理学者であったアインシュタインは、このことを次のように説明しているのである。

「円や球には、大きさには限りがあつても、果てはない」という性質がある。過去、地球は丸い、ということに気がつかなかつたころ、地平はどこまでも続いているとしか考えられなかつた。それと同じで、私たちにはどこまでも続いているとしか考えられない空間や時間にも、やはり、^j限りはあつても果てはない」という性質がある。ただ、私たち人間には、円や球の場合と違つ

て、その仕組みはわからないのである。それを理解する能力は備わっていないのである」

仏教風に考えてみよう。自分たちがなにげなく生きている世界は、無限の空間、永久の時間の中に浮かんでいる世界である。自分にとって、最も長い時間である自分の一生も、永久の時間からみれば一瞬にも満たない時間である。なんと、人間は、はかない存在か……。ということになる。こんなふうと考えてしまうと、人間が生きていくための努力はなんの意味があるのか、わけが分からなくなってしまうのである。これでは、建設的な議論をしたくても議論のしようがない。

とにかく、完全なるものは、人間の頭の中だけにしか存在しえないのである。人間の考えだした理念を、理念であるがゆえの完全さを、現実と比較して、価値であると錯覚してはならないのである。

（香山卓太『日本の理想―楽しい議論の出来る国に―』による）

問一 傍線部 a 「イデオロギーは、常識を根底から崩してしまう」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 13。

- 1 特定の観念によって生み出されるイデオロギーは、それまでの常識を乗り越える対象とすることで人々を巻き込み、作り上げられていくということ。
- 2 ある特別の観念を正しいものと信じ込むのがイデオロギーであり、イデオロギーの前では社会一般に信じられている常識は考慮に値しないものでしかないということ。
- 3 イデオロギーとは逆転した論理を掲げること、常識を非常識なものともみなし、非常識なものを常識とするような考え方が正しいとされるということ。
- 4 イデオロギーは現実を否定することによってしか存在できないため、現実社会を支える常識とは共存できないということ。

問二 空欄 A に入る語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

14。

- 1 人の興味をそぐ
- 2 人の興味をそそる
- 3 人に興味を与える
- 4 人に興味をもたれない

問三 傍線部 b・c・d・e・f・h と同じ漢字を含むものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つ

ずつ選びマークしなさい。解答番号は 15 〽 20 。

b 「チツジヨ」

- 1 自然の美しさや清らかさを詠んだジヨケイ的な歌である。
- 2 旅行が共通の趣味である彼女とは良きゴジヨ関係にある。
- 3 その出来事は次のステージに進むジヨシヨウに過ぎなかった。
- 4 在来生物保護のため、外来生物のクジヨ作業を行った。

c 「コンカン」

- 1 海の中に花が咲いているかのようなカンシヨウが広がっている。
- 2 日本にとって自動車産業はシュカン産業の一つだ。
- 3 不景気で閉店が相次ぎ、商店街はカンサンとしている。
- 4 体の一部を含むカンヨウ句は数が多い。

d 「ダトウ」

- 1 ダサクだと酷評されていた彼の小説は、芥川賞を受賞した。
- 2 文明の力は暮らしを豊かにする一方、ダラクさせる原因でもある。
- 3 争うのはやめて、ダキヨウ点を見出してお互い歩み寄ろう。
- 4 川の流れに身を任せるようなダセイで生きていてはいけない。

e 「タイケイ」

- 1 中身が漏れにくいケイジヨウの容器を開発する。
- 2 かしこまった手紙ではテイケイ文から文章を始めることが多い。
- 3 電気ケイトウの故障が原因でトラブルが発生した。
- 4 この場所で店を始めることになったケイイを説明する。

f 「ドレイ」

- 1 スペインは先住民族を征服し、レイジュウさせた。
- 2 屋久島の縄文杉はジュレイ千年以上と言われている。
- 3 京都を舞台にカレイな推理ショーが始まった。
- 4 レイギ正しい人になるよう子供のころから厳しくしつけられた。

h 「ニンシキ」

- 1 回答はニンイです。
- 2 カンニン袋の緒が切れる。
- 3 顔ニンシヨウのシステム。
- 4 ニンキに火がついた。

問四

空欄

に入る語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

。

1 結果

2 方法

3 人数

4 前提

問五

空欄

・

に入る語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマーク

しなさい。解答番号は 。

1 C 手段

D 目的

2 C 目的

D 手段

3 C 真理

D 空想

4 C 空想

D 真理

問六

傍線部 g 『論理逆転の現象』こそ、文明を揺るがす原点である」とあるが、なぜそう言えるのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

1 文明は社会の常識に支えられているが、理念の実現を優先するようになるとその常識は塗り替えられてしまうから。

2 人々にとって常識とされている社会の規範は強い影響力をもち、文明を根底から覆す存在になるから。

3 特定の理念を理想や正義とする価値観のもとでは、開かれた場での議論は不可能だから。

4 文明は人々の生活を安定させることを目的としているが、主客転倒の論理によってその前提が覆されるから。

問七

傍線部 i 「現実を通り越して迷走しただのである」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 24。

- 1 頭の中で考えるという行動にはなんの制約も存在しないため、時には実現できないことまで妄想がふくらむということ。
- 2 観念の世界は現実と違って限界が存在しないため、なんでもできる気がしてしまうということ。
- 3 考えることは人を夢中にさせるため、どこまでも理想を追い求めてしまうということ。
- 4 人間の観念には限りがないため、人々が考えうる世界は常に実現を顧みないものになるということ。

問八

空欄 E・F に入る語句はなにか。次の 1～8のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 25・26。

- | | | | |
|--------|---------|-------|------|
| 1 あるいは | 2 しかし | 3 しかも | 4 なお |
| 5 たとえば | 6 したがって | 7 ただし | 8 だが |

問九

傍線部 j 「限りはあっても果てはない」とあるが、それを自然数を例に説明するとどのようなことだと言えるか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 27。

- 1 自然数には限界の大きさがあるが、それを考える人間の観念に限界はない。
- 2 自然数は無限ではないが、自然数の先に「無限大」がある。
- 3 表すことができる自然数には限りがあるが、自然数は無限に存在する。
- 4 自然数は有限だが、いくらでも大きい数を考えることができる。

問題三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

先日、地下鉄南北線に乗ったら、七人掛けの座席に七人座っており、そのうち六人が携帯電話でメールを打っていた。残りの一人は幼児で、メールを打つ母親の隣で黙々とお菓子を食べている。

これは今や当たり前の光景とは言え、七人中六人が同じスタイルで携帯電話を持ち、同じスタイルで小さな画面を見つめ、同じスタイルで親指をせわしく動かしている姿は不気味^aだった。一方、母親に話しかけてもらえない幼児は、お菓子の粉をズボンにこぼしながら食べ続けている。やがてそれに気づいた母親が、かなりきつく叱った。

「汚しちゃダメでしょッ」

そして、幼児のズボンを手ではたき、粉を一気に床に落とすと、再びメールに没頭し始めた。学習した幼児は、ズボンに粉が散るたびに小さな手で床に落とし、電車を降りる際には空き箱まで床に捨てていった^b。母親はそれを見たが、当たり前のよう^cに降りていった。

すると今度は、その空いた席に、女子高生が座った。制服姿であったが、バッチリと濃い化粧をしている。女子高生の化粧も今や当たり前のことだが、彼女はワインレッドのサングラスを鼻めがね風に浅くかけ、真っ白なウサギの帽子をかぶっている。長い耳の垂れた、赤ん坊がかぶるような毛糸の帽子だ。たぶん、ワインレッドのサングラスは「ウサギの赤い目」を意識したコーディネートなのだろう。

やがてその女子高生、棒のついたアメをカバンから取り出した。そして鼻めがねのサングラス姿でペロペロとなめ始めた。七人掛けの座席に六人座り、五人がメールでウサギがアメである^c。これはもうホラー^dとしか言いようがない。

他の乗客はどんな反応を示しているかと見回したのだが、

A

。他の乗客もメールを打っていたし、やっぱりこんな光景は当たり前のことなのだろう。

私は「当たり前のことなんだ」と自分に言い置きさせながらも、本当は当たり前^dであってはならない光景だと思っていた。「メー

ル」と言えば聞こえはいいが、要は「筆談」である。メールはコミュニケーション手段のひとつとして、当然利用すべきものではあるが、どこでもかしこでも親指を動かしている人たちに会うと、筆談が当たり前になりつつあることの怖さを感じる。タクシーの順番待ちの間にメール、電車が来る迄までの間にホームでメール、レストランで食事の相手がトイレに立つとメールである。百歩譲ってこれらを納得しても、国技館で大相撲の仕切り時間にメールを打つ人を何人見たことか。さらに驚いたシーンがある。ボクシングの試合で、三分間のラウンドを終えた選手は、コーナーで一分間休むのだが、その一分間にメールを打つ観客がいるのだ。これを「当たり前」で片づけていいのだろうか。

つい先日、女性週刊誌に出ていたのだが、OLたちが会社を辞めたくても辞められないのだという。私はその理由を、「辞めても自分は何もできないから」とか「辞めても次に何をやりたいという目標がないから」とか、ありきたりのことを予測していた。

私は大甘だった。OLたちが会社を辞めない理由を読んで驚いた。

「会社で私用メールをタダで打てるから。パソコンの前でキーボードを叩たたいていけば、絶対に仕事しているように見えるから、誰も文句言わないもん。バンバン私用メール打ちまくってるよ。会社を辞めるとそれができなくなるからね」

なるほどねえ……。会社を辞められない理由として「タダのメールが打てなくなるから」ときたか……。つくづく世も末である。

時代の流れに応じ、世の中が変わっていくのは当たり前なこと、それによって人心が変わっていくのも当たり前だ。だが、それにしてもである。最近の日本人はヘン過ぎる。そしておそろく、誰もがそれに気づいている。だが、どうしたらいいかわからないし、自分一人で何か手を打ったところで流れは変わらないと諦めるのだ。それに、そんなことをして嫌われたり、うつつうしがられても生きにくくなるだけだしね……。と。

私自身もそう思っている一人のだが、さすがに何か手を打たなければならぬ時期に来ているのではないだろうか。七人掛けの座席で六人がメールというのも、ズボンを汚すのはいけないが電車の床を汚すのはいいというのも、濃い化粧で車内でアメ

をなめるウサギも、かつての大人たちならイツカツしただろう。

「恥を知れッ、バカヤロツ」

今は「バカヤロツ」なんぞと言っただけで大ソウドウになる。私は昨年、NHK朝のテレビ小説『私の青空』で頑固親父を書いたが、伊東四朗さん演ずるその頑固親父に、何回か「バカヤロツ」と言わせたところ、NHKに

B

である。

「バカヤロツ」という言葉は人権無視だ。許せない。何が悪いかきちんと説明して共に考えるのが人間だ」

それも大半が匿名のメールである。かつては、人間として当たり前のことに説明などいらず、それがわからないのは「バカヤロツ」だったのだが、今では通らない。

意見は実名で言うとか、電車の床にゴミを捨てないとか、カジヨウな筆談は控えるとか、当たり前のことを注意するのに人権を熟慮しながら、言葉を練りあげねばならない。それでもムカついた相手に刺し殺されたりする世の中だ。

筆談で他愛のない話をするのが一番、というのもうなすける気がする。

(内館牧子『忘れないでね、わたしのこと』による)

問一 傍線部 a 「不気味だった」とあるが、筆者はなにを「不気味」と感じたのか。次の 1〜4のうちから最も適当なものを

一つ選びマークしなさい。解答番号は 28。

- 1 小さな画面の向こうにあるはずの別世界を想像し、肉体と心のある場所がバラバラになっていると感じたこと。
- 2 違った個性をもつ人々を同じように惹きつける携帯電話やメールの中毒性からは逃れられないと感じたこと。
- 3 七人が七人も夢中になってメールを打っている様子に、知性のかけらも感じられなかったこと。
- 4 幼児以外の全員が同じ姿で同じ動作をしていることに、機械のような無機質さを感じたこと。

問二 傍線部 b 「母親はそれを見たが、当たり前のように降りていった」とあるが、この幼児と母親の姿を筆者はどのように

捉えているか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 29。

- 1 スポンを汚すときつく叱るのに床を汚すことを悪いと思っていない母親が、乗客の中で際立って異常に見えた。
- 2 お菓子の粉や空き箱を床に落とすことを気にしない親子に対して、メールを打つ大人たちと同質の異常さを感じた。
- 3 母親を真似て床を汚す幼児を見て、将来目の前の大人たちと同じようにメールを打つ大人になるのだろうかと思った。
- 4 静かで誰もがじっとしている車内で、声を出しせわしく動く幼児と母親が異質なものに見えた。

問三 傍線部 c 「これはもうホラーとしか言いようがない」とあるが、ここまでの場面で筆者から見える情景を端的に表して

いるものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 30。

- 1 分別のつく年齢である大人たちが、浅はかに子供のようなふるまいをしている。
- 2 極彩色にいろどられた女子高生が象徴するように、人々は身勝手さを隠そうともしない。
- 3 目に見える人々が個人個人の好きなように自己の世界に埋没している。
- 4 遊園地にいるかのような非日常的な光景が日常と化している。

問四 空欄 A に入る語句はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号

は 31。

- 1 まったく無関心である
- 2 慣れた様子で耐えている
- 3 驚いている様子だった
- 4 苦い顔をしていた

問五 傍線部 d 「本当は当たり前であってはならない」とあるが、それはなぜか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一

つ選びマークしなさい。解答番号は 32。

- 1 時と場をわきまえず、いつでもどこでもメールをするのは度を越した行動だから。
- 2 同じ場にいる人との交流をないがしろにしてメールを楽しむのは、本来あるべきコミュニケーションの形でないから。
- 3 どんな状況でもメールをやめられないほど人との交流に執着するのは健全ではないから。
- 4 当たり前だからとどこでもかしこでもメールをする姿は、人々が思考停止していることを表しているから。

問六 傍線部 e 「つくづく世も末である」とあるが、筆者はなにに落胆したか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ

選びマークしなさい。解答番号は 33。

- 1 O.L. たちが仕事を辞めないのは自己肯定感の低さが理由だと考えたが、実態は楽な仕事に甘えることだけを考えており、自分の能力を無駄にしているので落胆した。
- 2 O.L. たちが仕事を辞めないのは具体的な目標が決まらない焦燥感が理由だと考えたが、実態は目の前の仕事をいかに乗り切るかだけを考えており、意識の低さに落胆した。
- 3 O.L. たちが仕事を辞めないのは自己の将来に対する不安が理由だと考えたが、実態は今現在の利益を判断基準にしており、短期的なことしか考えていないので落胆した。
- 4 O.L. たちが仕事を辞めないのは自己に対する自信のなさが理由だと考えたが、実態は自らに利するかどうかを判断基準にしており、あまりにも自分本位だったので落胆した。

問七

傍線部 f 「さすがに何か手を打たなければならぬ時期に来ている」とあるが、筆者はなにを守るために「手を打たなければならぬ」と考えているか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 34。

- 1 日本人の美德
- 2 日本人の公共性
- 3 日本人の知性
- 4 日本人の潔癖性

問八

傍線部 g・h・j と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 35 37。

g 「イッカツ」

- 1 入浴によつて免疫細胞がカツセイ化される。
- 2 観客の拍手カツサイがその演奏のすばらしさを表していた。
- 3 新居の家具をブンカツ払いで購入する。
- 4 世界中にはキカツに苦しむ子供たちが大勢いる。

h 「ソウドウ」

- 1 経済政策の成否が今回の選挙のソウテンになりそうだ。
- 2 突然の発表に会場はソウゼンとした。
- 3 彼はソウダイな野望を皆の前で語った。
- 4 データの分析によつて二つの事項のソウカン関係が証明された。

j 「カジヨウ」

- 1 コウジヨウ心を忘れずに常に学習し続けます。
- 2 ようやく健康を取り戻したのでゲンジヨウ維持に努めます。
- 3 消費されないヨジヨウな食品の行き場に困っている。
- 4 増税にビンジヨウした値上げは許せない。

問九 空欄 B に入る語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号

は 38。

- 1 質問が殺到
- 2 「バカヤロツ」の応酬
- 3 共感の声
- 4 クレームの嵐

問一〇 傍線部 i 「バカヤロツ」という言葉は人権無視だ。許せない。何が悪いかきちんと説明して共に考えるのが人間だ」とあるが、この意見における物事の見方の特徴はどのようなものか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 39。

- 1 物事の細部にこだわり、日本人が大事にしていた感性をより研ぎ澄まそうとしている。
- 2 前後の文脈を理解しようとせず、偏った考え方を常識だと誤解している。
- 3 上意下達という古典的な考えに対して、真正面から抗議しようとしている。
- 4 物事を表面的に捉え、集団の中に通底している暗黙の了解よりも個人の捉え方を優先している。

問一

傍線部 k 「筆談で他愛のない話をするのが一番、というのもうなすける気がする」とあるが、この部分で表現されて

いる筆者の心情を端的に表した語句はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番

号は 40。

- 1 情けは人のためならず
- 2 他山の石
- 3 乾坤一擲けんこんいつてき
- 4 さわらぬ神にたたりなし